

BASEBALL COLUMN

ベースボールコラム

特別連載

vol.29

野
球
殿
堂
博
物
館

公
益
財
団
法
人

榎本喜八氏 2000安打記念トロフィー

1950～60年代にかけて毎日・大毎オリオンズの“ミサイル打線”の中心を担った榎本喜八氏が、今年野球殿堂入りしました。

榎本氏は早稲田実業から1955年に毎日に入団。18歳ながら開幕を5番・一塁手で迎え、2戦目(3月29日駒沢球場)の東映戦の二回、後藤修投手から初安打を記録しました。同年139試合に出場、打率.298、16本塁打、打点67、四死球はリーグ最多の97と活躍し、新人王に選ばれました。60年に打率.344、66年には打率.351で首位打者となり、60～62、66年の4

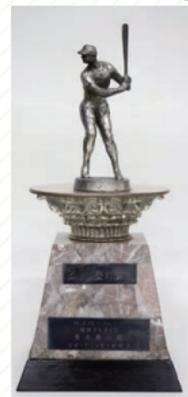
度最多安打を記録しています。

1968年7月21日、東京スタジアムでの近鉄戦(ダブルヘッダー第1戦)の初回、鈴木啓示投手から2点タイムリーとなる二塁打を放ち、通算2000安打を達成しました。川上哲治(巨人)、山内一弘(毎日他)に続く、日本プロ野球史上3人目の快挙でした。2016年6月末現在、NPBでは47人が2000安打を達成していますが、31歳7か月での達成は、現在においても史上最も若い記録達成です。

翌日の新聞には、試合後のインタビューの最中に、「おめでとう。これが

らもがんばって下さい。」という川上哲治巨人監督からの祝電を受け取り、「左打者として川上さんを目標にがんばってきた」と感激して涙を流したとのエピソードが紹介されています。

このトロフィーは、2000安打を記念してスポーツニッポン新聞社から榎本氏に贈られたもので、1971年より当館にて収蔵しています。



学芸員 関口貴広